

| | | | | | | | | | |
|-------|-------|------|------|--------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 21107 | | 区分 | 専門基礎科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 保育者論 | | 担当者名 | 田部 永子 | | | ○ | | |
| 配当年次 | 1 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | 2 | 授業方法 | 講義 | 卒業要件 | 必修 |

<授業の概要>

保育者論は、保育士をはじめ幼稚園教諭、保育教諭など多様化する保育者像を見すえ、子どもの育ちと保護者の子育てを支える保育者の専門性について学ぶことを目的としている。保育士養成カリキュラムに準じて授業内容を設定し、保育者の役割と責務について具体的に学ぶ。目指す学習成果は、保育者の役割、保育者の倫理、保育者の資格と責務、保育士の専門性、保育者の協働と連携、保育者のキャリア形成などについてである。

<授業の到達目標>

子どもの育ちと保護者の子育てを支える保育者の専門性について学ぶに当たって、5つの目標を設定している。1. 保育者の役割と倫理について理解すること。2. 保育士の制度的な位置づけを理解すること。3. 保育士の専門性について考察し、理解すること。4. 保育者の協働について理解すること。5. 保育者の専門職的成長について理解すること。などについて、事例や図表などによってわかりやすく授業を進める。

<授業の方法>

講義では、保育所保育指針を使用し、各単元のポイントをワークシートを使って予習し、授業で深めていく。また、グループワークで意見交換をしながら具体的に理解できるようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習=事前課題として「保育者論」のワークシートと保育所保育指針の予習復習=單元ごとに確認テスト

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

こども発達学科では、豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多方面な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、グローバルな保育者養成を目指している。この科目を受講して得られる知識や能力は、こども発達学科のディプロマポリシーDP1（多文化共生時代の保育者として、グローバルな視野で保育観を磨き、国際理解のための知識を身に付けている。）DP4（家族と地域をめぐる子どもの環境を整備・改善するためのコミュニケーション能力を身に付けている。）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題ワークシート等(予習)内容40% 振り返り(確認テスト)30% 最終レポート30%

<教科書>

厚生労働省（2018）
『保育所保育指針解説』
フレーベル館

<参考書>

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|------------------|-------------------------------|
| 1 | オリエンテーション 保育者の役割 | 保育者の援助や環境構成の役割 |
| 2 | 保育者の倫理 | 保育士の専門的倫理の概念と必要性、法律との違い |
| 3 | 保育者の資格と責務 | 保育士の法的・制度的な特質や、資格のあり方や責務 |
| 4 | 養護と教育 | 幼稚園や保育所保育の「養護」と「教育」の具体的な内容と実践 |
| 5 | 保育者の資質と能力 | 保育者としての資質や能力への気づきと身につける方法 |
| 6 | 専門的な知識・技術・判断 | 保育者としての専門的知識・技術・判断とはどのようなことか |
| 7 | 保育の省察 | 保育士の保育の省察とは何かを理解 |
| 8 | 保育課程にかかわる保育者の専門性 | 計画・実践・評価・改善という保育のプロセスと保育者の専門性 |
| 9 | 保育者の専門性と自己評価 | 保育者の自己評価や保育評価の種類や観点の基礎 |
| 10 | 園での協働 | 職員の協働性や協力体制、職員間の連携 |
| 11 | 専門機関との連携 | 保育現場における専門機関との連携や協働 |
| 12 | 保護者および地域社会との協働 | 保育現場における保護者や地域社会との連携や協働 |
| 13 | 家庭的保育者等との連携 | 家庭的保育の概要や連携 |
| 14 | 保育者の専門性の発達 | 保育者の発達段階モデルと発達を促す要因 |
| 15 | 保育者のキャリア形成 | 保育者の学び、資質向上への研修によるキャリア形成 |

次世代教育学部こども発達学科

| | | | | | | | | | |
|-------|-----------------|------|------|--------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 22104 | | 区分 | 専門基礎科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 音楽の理解 | | 担当者名 | 高崎 展好 | | | ○ | | |
| 配当年次 | カリキュラムにより異なります。 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | 2 | 授業方法 | 演習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

音楽のルールを学びます。音楽の基礎知識や楽譜に記された記号や用語を理解し、ピアノ演奏に必要な読譜力、コード（和音）の知識を身につけることを目指します。この授業では、音楽の理解を深めるとともに、基本的な発声、ソルフェージュ、歌唱作品を通じて音楽の3要素であるメロディー、ハーモニー、リズムを体感し、楽譜を理解することから音楽の楽しさを会得します。すべての課題レポートについては、GoogleClassを使用するため、PCを準備の上、望んでください。

<授業の到達目標>

①楽譜の読み書きを含めた基礎的な音楽基礎力を身に付ける。②歌唱に必要な基本的発声、柔軟体操、表現力を身に付ける。③ピアノ演奏に必要な和音（コード）の学習し、簡単な伴奏法の習得を目指す。また基本的な楽譜の読み書きとリズム・ソルフェージュを行い視唱力を高める。コードネームを用いて簡単な伴奏付けをできるようにする。

<授業の方法>

講義を中心に授業を行う。またリズム学習、ソルフェージュ、歌唱指導も併せて行う。講義では教科書を中心に学習するが、練習問題や楽譜、資料などを配布することが多いため、各自ファイルを毎時間持参すること。各テーマ（単元）で小テストを実施し習熟度を測る。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画に従って予習し、講義、演習で学んだ内容は必ず復習すること。次週課題（事前予告）の予習 60分、これまで学習した課題の復習 60分

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

こども発達学科のディプロマ・ポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成」のための基礎科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 20%、小テスト 30%、提出物 50%、

<教科書>

坪野春枝（発行2016年5月15日 第78版）

最もわかりやすい楽典入門

ケイ・エム・ピー

<参考書>

教芸音楽研究グループ（発行2013年11月20日 第6刷）

音楽通論

教育芸術社

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|-----------|----------------------|
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方の確認歌唱指導 |
| 2 | 楽譜の仕組み1 | 譜表 |
| 3 | 楽譜の仕組み2 | 音符と休符 |
| 4 | 楽譜の仕組み3 | 音名 |
| 5 | 楽譜の仕組み4 | 拍子 |
| 6 | 楽譜の仕組み5 | 様々な記号:発想記号、速度記号、省略記号 |
| 7 | 楽譜の仕組み6 | リズム |
| 8 | 楽典1 | 長短系の音程 |
| 9 | 楽典2 | 完全系の音程 |
| 10 | 楽典3 | 音階 |
| 11 | 楽典4 | 和音の種類、三和音、七の和音 |
| 12 | 楽典5 | コードネーム |
| 13 | 楽典6 | コードネームを使用したピアノ伴奏法 |
| 14 | まとめ課題 | 復習課題 |
| 15 | 総括 | 確認テスト、振り返り、総括 |

次世代教育学部こども発達学科

| | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|------|-----------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 23208 | | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 教育心理学 A | | 担当者名 | 中井和弥、内田伸子 | | | ○ | | |
| 配当年次 | 1 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | 2 | 授業方法 | 講義 | 卒業要件 | 必修 |

<授業の概要>

本講義は、教育心理学分野の理論や知見を学ぶことで、子どもを心理学的に理解することを目的としている。教育心理学の中でも教育を受ける子どもの特性に関する内容を中心に、発達・学習・記憶・動機づけ・性格・不適応といったテーマを取り上げる。

<授業の到達目標>

1. 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。| 2. 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。| 3. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。

<授業の方法>

教科書を基に講義形式で行い、資料を配布する。適宜グループワークやディスカッションを行う。| 1. 講義| 2. グループワーク、ディスカッション| 3. 質疑応答

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（60分）：授業部分の教科書を読んで理解しておくこと。| 復習（60分）：授業で教わったことを振り返り、課された小課題に取り組むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度や受講意欲（20%）| 小課題（40%） ※毎回の授業後に課題を課します。| レポート（40%）

<教科書>

櫻井茂男編（2017）
改訂版 たのしく学べる最新教育心理学—教職に関わるすべての人に—
図書文化内田伸子（2020改定）
発達の心理～ことばの獲得と学び～
サイエンス社

<参考書>

内田伸子（2011年3刷）
ことばと学び～響あい、通いあう中で
金子書房

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|--|--|
| 1 | オリエンテーション／教育心理学とは | 教育心理学とは、教育心理学の歴史、教育心理学の研究法 |
| 2 | 発達を促す | 発達とは何か、発達を規定する要因、発達段階と発達課題 |
| 3 | やる気を高める | 動機づけ、学習意欲、無気力 |
| 4 | 学習のメカニズム | 学習の基礎としての条件づけ、学習における記憶の役割、問題解決としての学習 |
| 5 | 授業の心理学 | 学習指導の理論、「協同的な学び」を支える、「主体的な学び」を支える、ATIと「教育の個性化」 |
| 6 | 教育評価を指導に生かす | 教育評価の意義と目的、教育評価の歴史的展開、教育評価の考え方と方法 |
| 7 | 内田伸子（集中講義①） 男の子はなぜ発達がゆっくりか～子どもの発達の原理を探る～ | 乳幼児～児童期までの心の発達過程と原理について解説し、幼児期からのことばの教育について提案する。【予習；内田テキスト3章を読んで理解し、授業に臨むこと】 ◆3分間のコメント作文 |
| 8 | 内田伸子（集中講義②） 学力格差は幼児期から始まるか～遊び（プレイフル・アクティブラーニング）を通して非認知力が育まれる～ | RQ「幼児期から学力格差は始まるか？」について、日韓中 越蒙国際比較縦断追跡研究に基づき考察する。【予習；内田テキスト第8章を読んで理解し、授業に臨むこと】 ◆3分間のコメント作文 |
| 9 | 内田伸子（集中講義③） 考える力を育てることばの教育～AIに負けない力を育む保育・教育の提案～ | 考える力を育てることばの教育～AIに負けない力を育てる子育てや保育・教育について提案する。【予習；内田テキスト第9章を読んで理解し、授業に臨むこと】 ◆3分間のコメント作文 |
| 10 | 知的能力を考える | 知的能力の発達、知的能力の測定、創造性、学力と学業不振 |
| 11 | パーソナリティを理解する | パーソナリティの理論、パーソナリティの測定、パーソナリティの発達 |
| 12 | 社会性を育む | 向社会的行動、道徳性、親子関係の発達、仲間関係 |
| 13 | 学級の心理学 | 学級の心理学、教師と子どもの関係、子ども同士の仲間関係 |
| 14 | 不適応と心理臨床 | 子どもの不適応とストレス、さまざまな精神的な不調、生徒指導の重要課題、心理臨床的技法 |
| 15 | 障害児の心理と特別支援教育 | 国際生活機能分類の考え方と障害、知的機能と行動のさまざまな障害、さまざまな身体の障害、これからの特別支援教育 |

次世代教育学部こども発達学科

| | | | | | | | | | |
|-------|---------|------|------|-----------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 23104 | | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 発達心理学 A | | 担当者名 | 中井和弥、内田伸子 | | | ○ | | |
| 配当年次 | 1 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | 2 | 授業方法 | 講義 | 卒業要件 | 必修 |

<授業の概要>

発達心理学は人間の胎児期から老年期までの生涯にわたる身体、行動、能力などの心身の成長、発達過程を心理学の理論を背景として研究するものである。この授業では、主に胎児期から青年期までの発達を中心に、発達心理学の基礎知識や理論とともに、保育実践に役立つ具体例や研究知見等も取り上げ、講義やディスカッションを行う。

<授業の到達目標>

1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。2. 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。

<授業の方法>

教科書を基に講義形式で行い、資料を配布する。適宜グループワークやディスカッションを行う。1. 講義 2. グループワーク、ディスカッション 3. 質疑応答

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習(60分)：授業部分の教科書を読んで理解しておくこと。復習(60分)：授業で教わったことを振り返り、次回の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度や受講意欲(20%) 小テスト(40%) ※2回目以降の授業冒頭で実施し、その次の授業で採点した答案を返却する。期末テスト(40%)

<教科書>

櫻井茂男他編(2021)
たのしく学べる乳幼児のこころと発達
福村出版

<参考書>

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|------------------------------------|--|
| 1 | オリエンテーション | 授業の受け方、評価方法などの説明 |
| 2 | 乳幼児の心理、胎生期の発達 | 乳幼児と乳幼児心理学、乳幼児の特徴、発達の原理、胎芽期、在胎8週から23週、在胎24週から39週、誕生 |
| 3 | からだど運動 | からだの発育と発達、脳・神経の発達と運動、運動機能の発達 |
| 4 | 知覚 | 知覚とは、知覚機能の発達、乳幼児の知覚特性 |
| 5 | 認知と思考 | 思考の発達、記憶の発達、乳幼児の認知の有能性、乳幼児期の認知発達と適応 |
| 6 | 感情と欲求 | 感情とは何か、感情の発達、欲求と動機づけの発達 |
| 7 | ことばとコミュニケーション | ことばのめばえに必要なもの、ことばの発達過程、コミュニケーションとことば |
| 8 | 人間関係 | 社会的動物としてのヒト、愛着(アタッチメント)とは、さまざまな人間関係 |
| 9 | 遊び | 遊びの発達段階、ふり遊び・ごっこ遊びの発達とコミュニケーション、遊びの発達における大人の役割 |
| 10 | 自己 | 自己の認識、自己の理解と評価、気質の個人差、日本における自己 |
| 11 | 向社会性と道徳性 | 向社会的行動の発達、道徳性の発達、向社会性と道徳性を育む |
| 12 | 内田伸子 子どもの心とからだの発達過程～男の子と女の子の違い～ | 胎生期から児童期までの心とからだの発達について発達心理学と脳科学の知見に基づき理解し、子どもが伸びる保育について解説する。【予習；内田のテキスト第3章を読んで理解して授業に臨むこと】◆授業の振り返りに3分間コメント作文を作成する。 |
| 13 | 内田伸子 想像力の発達～子どものウソは嘘かを検証する | 子どものウソは悪意の嘘かについて、子どもの語りや遊びのエピソードから検証する。【予習；内田のテキスト第7章を読んで理解して授業に臨むこと】◆授業の振り返りに3分間コメント作文を作成する。 |
| 14 | 内田伸子 子ども中心の保育～遊び(楽習)により非認知スキルを育てる～ | 2017年幼保が一元化した。子ども一人ひとりの発達過程や状況にあわせて保育者はどのように援助したらよいか、スケフォールディング(scaffolding)の概念を解説する。【予習；内田のテキスト第8章を読んで理解して授業に臨むこと】◆授業の振り返りに3分間コメント作文を作成する |
| 15 | 現代社会とメディア | 乳幼児のメディア接触の実態、メディア接触と乳幼児の発達、養育者の関わり |

| | | | | | | | | | |
|-------|-----------------|------|------|------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 34101 | | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 保育内容総論 | | 担当者名 | 檜 日佳 | | | ○ | | |
| 配当年次 | カリキュラムにより異なります。 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | 2 | 授業方法 | 演習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容を相互的、総合的に理解し、保育の全体構想の中でとらえる。保育の目標、子どもの発達、「遊び」や「生活」、「環境」などから捉える保育の内容、歴史的変遷、今日的課題などを学び、保育所・幼稚園・こども園において展開される保育や教育への実践力を高めていく手立てを考察する。また、実際の指導に当たっての指導案作成についても学ぶ機会とする。

<授業の到達目標>

1. 保育内容各論の内容について子どもの遊びや生活の中で総合的に捉える視点を持つことができるようになる。2. 保育者の役割と援助等、保育者の専門性を理解する。

<授業の方法>

- ・ 講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・ 予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する教科書や参考資料を読み、授業の準備をする。（60分程度）
 ・ 復習：各回の講座の内容について、個人またはグループで復習をし、講義ごとのワークシートの追加記入や復習をする。（60分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、「乳幼児期の子ども理解に対する発達観、教育的観、心理的観、福祉的観等、多面的に子どもを理解する力」を身に付けるための演習科目である。こども発達学科のディプロマポリシー⑥（保育者としての自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観等を身に付けている）とディプロマポリシー⑦（主体的に自己の学習を振り返り、セルフマネジメント能力と生涯学習力を身に付けている）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 学習態度15%、授業課題30%、グループ貢献度 15%、振り返り及び小テスト40%・提出物は期限厳守のこと

<教科書>

神田伸生・高橋貴志編著（2019年8月10日）

演習保育内容総論

萌文書林

<参考書>

文部科学省（平成30年3月23日）

幼稚園教育要領解説

フレール館厚生労働省（2018年3月23日）

保育所保育指針解説

フレール館内閣府・文部科学省・厚生労働省（平成30年3月29日）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説フレール館

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|--------------------|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の目的・意義・概要 |
| 2 | 保育の全体構造 | 総論であることの意味、保育の場が目指すこと |
| 3 | 保育内容の歴史的変遷と社会的背景 | 保育内容の変遷、幼稚園・保育園・認定こども園の教育及び保育 |
| 4 | 子どもの発達や生活に即した保育内容 | 子どもの発達に即した保育とは、乳幼児期の発達と保育 |
| 5 | 養護と保育の一体性 | 保育所における養護と教育の一体性、就学前保育施設における養護と保育の一体性 |
| 6 | 子どもの生活と保育内容 | 現代の子どもの生活と保育内容、保育の場における生活、家庭の生活との連続性、総合性 |
| 7 | 子どもの遊びと保育内容 | 遊びの捉え方、遊びを通した保育の実践、遊びの中での保育者の役割 |
| 8 | 環境を通して行う保育内容 | 乳幼児保育の基本、環境を通して行う保育、環境を通して行う保育の具体的な展開 |
| 9 | 保育における「領域」（1） | 領域と保育内容、保育の総合性 |
| 10 | 保育における「領域」（2） | 領域の考え方と指導計画、保育における評価、計画・評価の基となる記録 |
| 11 | 多様な保育の場における保育内容（1） | 子ども子育て支援制度、様々な保育の場、地域型保育事業等の保育内容 |
| 12 | 多様な保育の場における保育内容（2） | 延長保育・預かり保育、多様な保育を進めるために |
| 13 | 様々な配慮を要する子どもの保育 | 障がいのある子どもの保育、他機関との連携、多分文化共生の保育 |
| 14 | 小学校教育との接続 | 小学校教育との連続性、アプローチカリキュラムとスターとカリキュラム、学力の3要素と保幼小の接続 |
| 15 | 現代社会の特質と保育内容 | 現代社会と保育内容、保育サービスの見直し |

次世代教育学部こども発達学科

| | | | | | | | | | |
|-------|-----------|------|------|-------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 34202 | | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 表現B(音楽表現) | | 担当者名 | 高崎 展好 | | | ○ | | |
| 配当年次 | 2 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | 2 | 授業方法 | 演習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

幼児期における音楽教育の意義を考え、多様な音楽表現と音楽的要素を含んだ遊びの活動を通して、その指導法を学ぶ。様々な特性を持った子どものニーズに応えられるよう、どんな子どもの心にも届く音楽表現を目指し、様々な方法論を学ぶ。また、子どもを理解し、人間性豊かな指導者になるための基本の考え方を身に付ける。音楽表現のレパートリーを数多く会得し、保育の場で活用、実践できることを目指す。すべての課題レポートについては、GoogleClassを使用するため、PCを準備の上、望んでください。

<授業の到達目標>

幼稚園教育要領、保育所保育指針より領域「表現」のねらいと内容を理解し、幼児教育において音楽表現の果たす役割、効果について学修を深める。保育者として子どもたちに表現することの楽しさを伝えるためには、自身が楽しむことが重要です。楽しく音楽表現を行うため、歌唱を通して、正しい知識と技能を修得し、実践を通じた豊富な経験を身に付けることを目標としたい。

<授業の方法>

講義と演習を繰り返し行いながら、保育教育に必要な様々な音楽表現の習得を目指す。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

本講義では楽譜などを配布。配布資料を整理できるファイルを各自準備すること。各回講義内容はテキスト「一人一人を大切にユニバーサルデザインの音楽表現」に沿っています。必ず予習を行うこと。また、演習で行った音楽表現内容は必ず復習をすること。会得できているか定期的の確認テストを行う。次週課題(事前予告)の予習60分・これまでに学習した課題の復習60分。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

表現B(音楽表現)を学ぶことにより、幼稚園教育要領、保育所保育指針より、5つの領域の1つである「表現」に示される「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感情や表現する力を養い、創造性を豊かにする」について理解を深め、修得するための科目である。こども発達学科のディプロマポリシーに明示される、豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付けるための科目である。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

授業態度・意欲 30%、講義内での課題、レポート提出 20%、実技発表(模擬保育形式) 20%、実技テスト 30%

<教科書>

星山麻木 編著、板野和彦 著(発行2015年8月10日 初版第1刷)

一人一人を大切にユニバーサルデザインの音楽表現

萌文書林細田淳子(発行2019年1月10日)

手あそび・体あそび・わらべうたがいっぱいあそびうた大全集200

永岡書店

<参考書>

発行2017年6月1日

平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本

チャイルド本社

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|--------------|----------------------------|
| 1 | オリエンテーション | 本講義の概要、進め方について、音楽表現とは何かを学ぶ |
| 2 | 基礎的な音楽表現① | ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現① |
| 3 | 基礎的な音楽表現② | ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現② |
| 4 | 基礎的な音楽表現③ | ストレッチ、基本的な発声、歌唱を通じた音楽表現③ |
| 5 | 子どもの発達と音楽表現① | 幼稚園教育要領より領域「表現」と音楽表現 |
| 6 | 子どもの発達と音楽表現② | 「表現」とは |
| 7 | 子どもの発達と音楽表現③ | 音楽の力 |
| 8 | 子どもの発達と音楽表現④ | ユニバーサルデザインの音楽表現 |
| 9 | 子どもの発達と音楽表現⑤ | 音楽表現とコミュニケーション |
| 10 | 子どもの発達と音楽表現⑥ | リズムの力 |
| 11 | 子どもの発達と音楽表現⑦ | 豊かな心の発達を促す音楽表現 |
| 12 | 子どもの発達と音楽表現⑧ | ことばとコミュニケーションの発達を促す音楽表現 |
| 13 | 子どもの発達と音楽表現⑨ | 認知や社会性の発達を促す音楽表現 |
| 14 | 保育実践演習 | 保育における音楽表現の実践演習 |
| 15 | 保育実践演習と総括 | 音楽表現(手遊び歌)による実技試験と本講義のまとめ |

次世代教育学部こども発達学科

| | | | | | | | | | |
|-------|-----------------|------|------|-------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 34105 | | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 子どもとマルチメディア | | 担当者名 | 本庄 慶樹 | | | ○ | | |
| 配当年次 | カリキュラムにより異なります。 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | 2 | 授業方法 | 演習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

情報通信。情報機器を利活用して、子どもの発育、教育教材を制作する。乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの子どもの発達の観点、教育的観点等を多面的に理解した上で、情報リテラシー・情報機器操作スキルを利活用した、子どもの教育を工夫する。

<授業の到達目標>

実践的な課題に取り組み教育の場で活用できる技術と問題解決能力、論理的思考力を育む。また、課題の創作活動を通して、情報機器を活用したメディアでの芸術的な技術力、表現力を身につける。

<授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた演習形式で行うため、PCは必携である。主にMicrosoft社製のOfficeを使用して学習を進める。教育現場で即戦力となる文書や資料の作成、発表を授業内課題とし、その課題提出、発表をもって成績評価とする。与えられた課題に対する評価はもとより自他の作品について考察し、自己能力の向上に努める学習状況を評価の対象とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で必要となるコンピューターとソフトの操作を予習しておくことは必須である。授業時間は、課題制作の方法を学び試作を行う時間、または発表及び他者の発表から学ぶ時間である。別に期限までに課題を制作する時間が各90分から120分程度必要である。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

子どもを取り巻くインターネットを含む情報や情報機器の環境は年々変化しており、現状の変化への感受性も教育者の資質といえよう。そういった環境変化を受け入れるという事は、対応・利活用できる資質を持つことが必要である。その資質とは、子ども学の知見と教養に基づく知識を理解した上で成り立つものである。(DP3) 広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、子どもの教育へのICT利活用能力を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける。(DP8)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出課題の完成度 30%、提出課題の取り組み 30%、講義内学習発表状況 40%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|--------------------|--|
| 1 | Eメールとクラウドの活用 | Eメールやクラウドについての知識の再確認と、現在の子どもの取り巻く問題点と課題を考える。 |
| 2 | 著作権と教育利用 | ICTの教育への利用の著作権、肖像権等、様々の注意点や問題点を出し考えていく。 |
| 3 | プログラミング教育 | 創造力、問題解決能力の育成のためのプログラミング教育（スクラッチ）を自ら体験する。 |
| 4 | 子どもとプログラミング教育（実践1） | プログラミング言語ビズケットを使って如何に子どもに課題を与えるかを考える。 |
| 5 | 子どもとプログラミング教育（実践2） | プログラミングできるブロックを使っての子どもへの教育企画を考える。 |
| 6 | ガジェット制作から学ぶ（実践1） | アニメーション作成を通して、パワーポイントでの動画作成の基本操作を学ぶ。 |
| 7 | ガジェット制作から学ぶ（実践2） | ガジェット作成を通してベクター画像作成を実践する。 |
| 8 | 電子絵本制作から学ぶ（1） | 電子絵本を読み聞かせしてみることで、可能性と課題を探る。 |
| 9 | 電子絵本制作から学ぶ（2） | 既存の絵本を作画することで、場面設定を学ぶ。また、電子絵本での可能性を考察する。 |
| 10 | 電子人形劇制作から学ぶ（1） | 作品制作に必要な構成力を磨く。 |
| 11 | 電子人形劇制作から学ぶ（2） | 発表を通じて、課題発見、解決の能力を養う。 |
| 12 | ビデオ作成 | 様々のコンピュータスキルを駆使し、課題制作をすることで、スキルと創造力・問題解決能力を磨く。 |
| 13 | ミュージックビデオ作成 | 制作と発表を通して、発達の観点、教育的観点等、多面的に学ぶ。 |
| 14 | Webサイトの現状について | 園、学校等のWebサイトの現状について考える。 |
| 15 | Webサイト作成 | HTML、CSSを用いた、制作技術を学ぶ。 |

次世代教育学部こども発達学科

| | | | | | | | | | |
|-------|-----------------|------|------|----------------------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 52006 | | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 保育実習指導 I B (施設) | | 担当者名 | 檜寄日佳、坪田章彦、平松美由紀、中井和弥 | | | ○ | | |
| 配当年次 | 2 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | 1 | 授業方法 | 演習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

児童福祉施設実習に臨む心構えを学ぶとともに、施設実習における自己課題を見出す。また、施設実習中の子どもとの生活を通し、子ども理解を深め、児童養護実践力の向上に努める。

<授業の到達目標>

・児童福祉施設における記録方法について学ぶ。・施設入所児童への理解を深め、実際の支援について考える。・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、個別指導等を適宜組み合わせを進める。また、必要に応じて上級生（保育実習 I B既習者）等をゲストに迎えて心構えに関する演習を行う。

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に手引きをよく読んでおくこと（1時間以上）。配布された資料をファイルし、授業後に内容を整理すること（1時間以上）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

社会福祉施設における保育士の意義及び役割を学び、保育実習 I B(施設)へと繋げられるように知識を修得する。また、主体性・多様性・共同性の考え方を育てよう学びを深める。こども発達学科ディプロマポリシー「保育・教育実習、実践活動等の経験を踏まえ、社会人としてのルールを遵守し、自己管理能力、チームワークやリーダーシップ、倫理観等を身につけている」及び「子どもや保護者・教育関係者との円滑な人間関係を築くための、問題解決力、論理的思考力、情報リテラシー・数量的スキル等の力を身につけている」に対応する。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度50%、実習に向けた課題50%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会(2019)

「保育実習の手引き」

保育士養成協議会厚生労働省

保育所保育指針（平成29年告示）

フレーベル館内閣府文部科学省厚生労働省幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領フレーベル館

<参考書>

適宜指示します

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|-------------|------------------------------------|
| 1 | オリエンテーション | 授業担当教員紹介と実習参加条件及び受講ルールについて |
| 2 | 実習の意義と目的 | 実習の意義・目標、スケジュールについて |
| 3 | 施設の種類と内容(1) | 施設概要の学習(養護系施設)について |
| 4 | 施設の種類と内容(2) | 施設概要の学習(障害児施設)について |
| 5 | 施設の種類と内容(3) | 施設概要の学習(障害者支援施設)について |
| 6 | 実習記録(1) | 実習日誌の意義について |
| 7 | 実習記録(2) | 実習記録のポイントと方法について |
| 8 | 実習記録(3) | 実習記録のポイントと方法について |
| 9 | 実習書類作成 | 自己紹介状、誓約書、出勤簿等の作成について |
| 10 | 実習施設の学習 | 実習施設のプロフィール調査について |
| 11 | 実習課題の設定 | 実習課題の理解と作成について |
| 12 | 事前訪問指導 | 実習課題の理解と作成及び事前オリエンテーションの諸注意について |
| 13 | 実習の実際 | 保育実習 I B既習者である上級生からアドバイス、及び公欠届について |
| 14 | 実習の心構え | プライバシーの保護と守秘義務、人権尊重と実習態度について |
| 15 | 実習事後指導とまとめ | お礼状の作成・発送、体験報告、反省課題と報告書の作成について |

次世代教育学部こども発達学科

| | | | | | | | | | |
|-------|---------------|------|------|----------------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 52005 | | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 保育実習指導ⅠA(保育所) | | 担当者名 | 檜寄日佳、趙秋華、平松美由紀 | | | ○ | | |
| 配当年次 | 2 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | 1 | 授業方法 | 演習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

保育実習ⅠAの事前学習と事後学習のためのものである。保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習目標・課題を明確にするとともに、保育実習の位置づけ、各保育実習の福祉施設の目的や保育士の保育の基本・業務などを学び、実習に際して、事前・事中・事後においてなすべき内容を理解し、保育実習の全体を把握する。社会人としてのマナーや保育士としての心構えも具体的・実践的に学んでいく。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習の計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、個別指導、グループワーク

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に実習の手引きを熟読して授業に臨むこと(60分)。配布資料をファイルし、授業後に内容を確認し整理すること(60分)。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

保育士資格取得のために必要な科目である。こども発達学科のディプロマポリシーDP6「保育・教育実習、実践活動等の経験を踏まえ、社会人としてのルールを遵守し、自己管理能力、チームワークやリーダーシップ、倫理観等の力を身に付けている」及びDP8「広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける」に対応し、社会人、保育士としての課題を明確にする機会とする。3年次配当の保育実習指導Ⅱに引き継がれ、さらに専門的知識の習得や保育技術力アップを図り、保育者としての自覚と実践力を高める機会とする。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・授業態度・意欲 30%、課題提出・内容 30%、保育技術実技の準備・取り組み 20%、模擬保育等の準備・グループ貢献度 20%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会(2019)

保育実習の手引き

岡山県保育士養成協議会

<参考書>

厚生労働省(2017)

保育所保育指針

フレーベル館内閣府文部科学省厚生労働省(2017)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

フレーベル館

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|----------------|------------------------------|
| 1 | 実習の基本的理解 | 保育実習の意義・目的、実習の概要 |
| 2 | 保育所実習の内容(1) | 保育の基本、保育の内容と方法 |
| 3 | 保育所実習の内容(2) | 障がい児保育、子どもの健康及び安全 |
| 4 | 保育所実習の内容(3) | 保育所実習の実際 |
| 5 | 指導計画の作成(1) | 保育課程と指導計画、模擬保育見学 |
| 6 | 指導計画の作成(2) | 指導案作成の手順・留意事項、模擬保育への参加(1) |
| 7 | 指導計画の作成(3) | 指導案作成・模擬保育への参加(2) |
| 8 | 指導計画の作成(4) | 指導案作成・模擬保育への参加(3) |
| 9 | 実習課題の明確化 | 自己課題の持ち方 |
| 10 | 指導案に基づく模擬保育 | 指導案に基づく模擬保育の実践 |
| 11 | 実習の準備(1) | 実習関連書類の作成 |
| 12 | 実習の準備(2) | 実習日誌の形式と記入の仕方、実習園でのオリエンテーション |
| 13 | 実習の留意点と事前指導の総括 | 守秘義務と子ども・保護者の人権擁護、実習生としての心構え |
| 14 | 事後指導(1) | 実習成果や新たな課題の共有と検討 |
| 15 | 事後指導(2) | 自己評価・課題の整理・学習目標の明確化 |

| | | | | | | | | | |
|-------|----------------|------|------|----------------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 52007 | | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 保育実習 I A (保育所) | | 担当者名 | 檜寄日佳、趙秋華、平松美由紀 | | | ○ | | |
| 配当年次 | 2 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | 2 | 授業方法 | 実習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において観察・参加・部分実習を行う。・保育所での実習を通して、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・保育所の役割や機能を具体的に理解する。・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習園での実習・観察実習・参加実習・責任実習（部分指導、半日指導）・担当保育者との振り返り

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・岡山県保育士養成協議会「保育所実習の手引き」、配布資料、教材資料等を熟読する。・保育実習に必要な保育技術（遊びの指導、絵本の読み聞かせ、弾き歌い等）の反復練習に努める。・保育指導計画案の作成と、それに基づく模擬保育実践を行い、実習へのイメージをもつ。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

保育士資格取得のために必要な実習である。こども発達学科のディプロマポリシーを踏まえ、施設実習の経験を踏まえ、社会人としてのルールを遵守し、チームワークやリーダーシップ、倫理観等の力を習得し、社会人、保育士としての課題を明確にする機会にする。3年次配当の保育実習Ⅱに引き継がれ、さらに専門的知識習得や保育技術力のアップを図り、保育者としての実践力を高められる機会とする。本実習はこども発達学科のディプロマポリシーDP6（保育・教育実習、実践活動等の経験を踏まえ、社会人としてのルールを遵守し、自己管理能力、チームワークやリーダーシップ、倫理観等の力を身に付けている。）及びDP8（広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける。）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 80%、事前オリエンテーション・反省会 20%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会（2019）

保育実習の手引き

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|----------|----------------------|
| 1 | 保育実習（1） | 実習園における事前オリエンテーション |
| 2 | 保育実習（2） | 実習園において指導のもとに観察実習（1） |
| 3 | 保育実習（3） | 実習園において指導のもとに観察実習（2） |
| 4 | 保育実習（4） | 実習園において指導のもとに参加実習（1） |
| 5 | 保育実習（5） | 実習園において指導のもとに参加実習（2） |
| 6 | 保育実習（6） | 実習園において指導のもとに参加実習（3） |
| 7 | 保育実習（7） | 実習園において指導のもとに参加実習（4） |
| 8 | 保育実習（8） | 実習園において指導のもとに参加実習（5） |
| 9 | 保育実習（9） | 実習園において指導のもとに部分実習（1） |
| 10 | 保育実習（10） | 実習園において指導のもとに部分実習（2） |
| 11 | 保育実習（11） | 実習園において指導のもとに部分実習（3） |
| 12 | 保育実習（12） | 実習園において指導のもとに部分実習（4） |
| 13 | 保育実習（13） | 実習園において指導のもとに部分実習（5） |
| 14 | 保育実習（14） | 実習園において指導のもとに半日実習 |
| 15 | 保育実習（15） | 実習園における実習反省会 |

次世代教育学部こども発達学科

| | | | | | | | | | |
|-------|------------|------|------|------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 53013 | | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 学校支援ボランティア | | 担当者名 | 奥山 優 | | | ○ | | |
| 配当年次 | 1 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | 1 | 授業方法 | 実習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実際について学ぶ。

<授業の到達目標>

学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身につけ、将来教師として子どもにかかわるための指導力を培うことができるようにする。

<授業の方法>

この授業は、前期および後期の年2回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に5回以上延べ15時間の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。活動の記録を日誌として残し、成果と課題をレポートにまとめて最後に発表する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習:事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを確認しておくこと。(30分程度)復習:学校にボランティアに行った日は、活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、記録に残しておくこと。(1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

学校支援ボランティアの在り方について学び、学校に出かけ児童・生徒の学習面や生活面での支援や指導を行うことを通して、教育経営学科のディプロマポリシーの7(子どもの未来に対する強い使命感と責任を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。)を養うための科目である。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ボランティア活動への取組みの様子 40%、レポート及び発表の内容 60%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|-------------------|-------------------------------------|
| 1 | 学校支援ボランティアとは | 学校支援ボランティアの目的、活動内容等 |
| 2 | 学校支援ボランティアの申し込み | 岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等 |
| 3 | 学校支援ボランティアの実際 | 学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等 |
| 4 | 学校支援ボランティアの実習(1) | 近隣の小・中学校等でのボランティア活動 |
| 5 | 学校支援ボランティアの実習(2) | 近隣の小・中学校等でのボランティア体験 |
| 6 | 学校支援ボランティアの実習(3) | 近隣の小・中学校等でのボランティア体験 |
| 7 | 学校支援ボランティアの実習(4) | 近隣の小・中学校等でのボランティア体験 |
| 8 | 学校支援ボランティアの実習(5) | 近隣の小・中学校等でのボランティア体験 |
| 9 | 学校支援ボランティアの実習(6) | 近隣の小・中学校等でのボランティア体験 |
| 10 | 学校支援ボランティアの実習(7) | 近隣の小・中学校等でのボランティア体験 |
| 11 | 学校支援ボランティアの実習(8) | 近隣の小・中学校等でのボランティア体験 |
| 12 | 学校支援ボランティアの実習(9) | 近隣の小・中学校等でのボランティア体験 |
| 13 | 学校支援ボランティアの実習(10) | 近隣の小・中学校等でのボランティア体験 |
| 14 | 学校支援ボランティアのまとめ(1) | 学校支援ボランティアの実習について学んだことを各自レポートにまとめる。 |
| 15 | 学校支援ボランティアのまとめ(2) | レポートの内容を発表し、成果と課題を共有する。 |

| | | | | | | | | | |
|-------|--------------|------|------|------------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 52009 | | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 保育実習指導Ⅱ(保育所) | | 担当者名 | 檜寄日佳、平松美由紀 | | | ○ | | |
| 配当年次 | 3 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | 1 | 授業方法 | 演習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

保育実習ⅠA(保育所)による保育現場での体験的学習と専門科目の学習を統合し、保育現場において求められる的確で高度な子ども理解の力と高度な実践的保育技能の習得を目指した演習を中心に進める。また、実習生が乳幼児に与える影響の大きさを自覚し、実習の意義、目的、心構え、実習への意欲的態度、立ち振る舞い等における各自の課題解決に取り組む。

<授業の到達目標>

保育実習Ⅱの実習事前学習として以下の点を目標とする。①保育実習Ⅱにおける実習の意義と目的を理解する。②保育実習ⅠAを踏まえた保育実習Ⅱにおける自己課題を明確化する。③実習事前学習として、各年齢に応じた指導案の立案する力を身に付ける。④実習に向けた教材準備、保育技術の向上のための模擬保育に意欲的に取り組む。

<授業の方法>

・講義、演習(実習の意義・目的、保育所の役割、保育者の役割等)、グループワーク(模擬保育、祖相互評価)、個別指導を組み合わせて実施する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・保育実習指導ⅠAで使用した「保育所実習の手引き」、配布資料等を熟読する。(30分程度)・保育実習ⅠAで明確になった自己課題を整理し、実習Ⅱに向けた課題を精査する。(30分程度)・保育実践における保いう技術スキル(遊びの指導、絵本の読み聞かせ、弾き歌いなど)の反復練習に努める。(30分~1時間程度)・指導計画立案に取り組み、それに基づく模擬保育の準備を行う。(1時間程度)・実習園での指導に向けた教材作成に努める。(30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目を受講して得られる知識や能力は「卒業認定・学位授与の方針」に定める「学生が本学における学習と経験を通じ、身につける能力」のうち以下の該当する。ディプロマポリシー2:「乳幼児期から青年期に至るまでの子どもに対しての発達の、教育的、心理的、感性的、福祉的観点等、多面的に子どもを理解する能力を身に付けている」、ディプロマポリシー5:「子どもや保護者・教育関係者との円滑な人間関係を築くための、問題解決能力、論理的思考力、情報リテラシー、数量スキル等の力を身に付けている」、ディプロマポリシー6:「保育者としての自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観等を身に付けている」に関連付いている。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・授業態度・意欲 30%、課題提出・内容 30%、保育技術実技の準備・取り組み 20%、模擬保育等の準備・グループ貢献度 20%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会
保育所実習の手引き

<参考書>

厚生労働省
保育所保育指針
フレーベル館内閣府文部科学省厚生労働省
幼保連携型認定認定こども園教育・保育要領
フレーベル館

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|----------------------------|---|
| 1 | 保育実習Ⅱの目的と意義 | 保育実習Ⅱと保育実習ⅠAの相違点と実習の目的と意義 |
| 2 | 保育所(認定こども園)の保育の理解 | 保育の基本、保育内容と方法 |
| 3 | 保育所(認定こども園)における障害がある子どもの保育 | 多様な子どもへの保育の理解 |
| 4 | 指導計画案の作成(1) | 部分指導に指導計画立案 |
| 5 | 指導計画案の作成(2) | 半日指導案の立案 |
| 6 | 模擬保育の実践(1) | グループでの模擬保育の実践と相互評価(行事・園全体での会等) |
| 7 | 模擬保育の実践(2) | グループでの模擬保育の実践と相互評価(リズム遊び、音楽を使った遊び等) |
| 8 | 模擬保育の実践(3) | グループでの模擬保育の実践と相互評価(体を使った遊び等) |
| 9 | 模擬保育の実践(4) | グループでの模擬保育の実践と相互評価(造形・製作遊び等) |
| 10 | 模擬保育の実践(5) | グループでの模擬保育の実践と相互評価(文字や数、言葉を使った遊び等) |
| 11 | 実習日誌の内容と記載 | 各年齢における子どもの姿、ねらい、環境構成、保育者の援助等各項目のよりよい記入の仕方 |
| 12 | 実習に向けた諸準備 | 実習関連書類(実習生自己紹介等)の適切な記入について、事前オリエンテーションの受け方等 |
| 13 | 実習における留意事項 | 守秘義務、子どもの生命・安全確保・実習生として留意する事項 |
| 14 | 実習事前指導の総括 | 実習生としての心構え、マナー等、実習に向けての最終確認事項、自己課題の明確化と考察 |
| 15 | 実習事後指導・総括まとめ | 実習自己評価、実習の振り返り(グループワーク)、実習のまとめ |

次世代教育学部こども発達学科

| | | | | | | | | | |
|-------|------------------|------|------|----------------------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 51008 | | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 教育実習事前・事後指導(幼稚園) | | 担当者名 | 後藤由佳、檜寄日佳、坪田章彦、平松美由紀 | | | ○ | | |
| 配当年次 | 3 | 配当学期 | 前期 | 単位数 | 1 | 授業方法 | 実習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

幼稚園教諭免許取得のためには現場での体験的な学習が必須である。事前指導では、これまでの幼児教育に関する学びを整理し、理論と実践をつなげるために、模擬保育、教材研究、指導案の作成、保育技術の復習等、実習を想定した様々な準備をしていく。また、「幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う」人間教育であることから、実習生の立ち居振る舞いも問われる。教育実習の意義と心構えを十分に理解し、自己課題を明確にするための学びも重視する。事後指導では、実習の成果と残された課題を分析し、幼稚園教諭としての自覚と問題意識を高める

<授業の到達目標>

1. 幼稚園実習の事前準備を通して保育の方法と技術を見直し、自己課題を明確にする。2. これまでに学んだ理論を生かして指導案の作成、模擬保育の実施、教材研究、保育技術の復習などを行い、実習に備える。3. 教育実習の意義を理解し、心構えを自覚すると共に、不安を和らげてよい緊張感をもって実習に臨めるようにする。4. 実習後、成果の確認と残された自己課題を分析し、幼稚園教諭としてのさらなる学びへの意欲を持つ。

<授業の方法>

・講義、演習（実習の意義・目的、保育所の役割、保育者の役割等）、グループワーク（模擬保育、祖相互評価）、個別指導を組み合わせて実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・「教育実習の手引き」や配布資料等を熟読する。・保育技術スキル（遊びの指導、絵本の読み聞かせ、弾き歌いなど）の反復練習をする。・指導計画立案に取り組み、それに基づく模擬保育の準備をする。・実習園での指導に向けた教材作成に努める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

幼稚園教諭免許状取得のために必要な科目である。これまで学んだ専門的知識や保育技術を実践することで、こども発達学科のディプロマポリシー6（保育者としての自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観等を身に付けている）とディプロマポリシー5（子どもや保護者・教育関係者との円滑な人間関係を築くための問題解決力、論理的思考力、情報リテラシー・数的スキル等の力を身に付けている）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業態度・意欲 30%、課題提出・内容 30%、保育技術実技の準備・取り組み 20%、模擬保育等の準備・グループ貢献度 20%

<教科書>

環太平洋大学（2021）

教育実習の手引き（幼稚園）

<参考書>

文部科学省（2017）

幼稚園教育要領

フレーベル館内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）

幼保連携型認定こども園教育・保育指針

フレーベル館文部科学省（2018）

幼稚園教育要領解説フレーベル館

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|-----------------|----------------------------------|
| 1 | 幼稚園実習の理解 | 教育実習の意義と目的、教育実習の目標と自己課題、実習の段階と計画 |
| 2 | 保育者の資質と幼児理解 | 保育者の役割、保育者の資質、発達の理解 |
| 3 | 実習の準備 | 実習の心得、実習の流れ、実習の具体的準備 |
| 4 | 実習の姿 | DVD視聴「保育者の役割」、保育者の姿の読み取り |
| 5 | 実習日誌の形式と書き方 | 実習日誌の具体的な書き方とポイント |
| 6 | 指導案の書き方とポイント | 指導計画案の立て方の手順と書き方 |
| 7 | 指導案の書き方と模擬保育(1) | 部分実習指導案の作成と模擬保育 |
| 8 | 指導案の書き方と模擬保育(2) | 半日実習指導案の作成と模擬保育 |
| 9 | 指導案の書き方と模擬保育(3) | 全日実習指導案の作成と模擬保育 |
| 10 | 模擬保育の実施と評価(1) | 部分実習模擬保育の実施と評価、実習日誌の記入の仕方 |
| 11 | 模擬保育の実施と評価(2) | 全日指導模擬保育の実施と評価、実習日誌の記入の仕方 |
| 12 | 幼児の理解と援助 | 配慮が必要な幼児の理解と援助 |
| 13 | 実習直前指導 | 幼稚園オリエンテーション、実習関連書類の作成と諸注意 |
| 14 | 教育実習のまとめ | 実習を振り返って・お礼状の作成 |
| 15 | 総括・実習報告会 | 実習の成果報告と今後の課題の明確化 |

次世代教育学部こども発達学科

| | | | | | | | | | |
|-------|----------------|------|------|------|---|------|-------------------|------|----|
| 科目コード | 53010 | | 区分 | コア科目 | | | 実務経験のある教員等による授業科目 | | |
| 授業科目名 | 保育・教職実践演習(幼稚園) | | 担当者名 | 檜 日佳 | | | ○ | | |
| 配当年次 | 4 | 配当学期 | 後期 | 単位数 | 2 | 授業方法 | 演習 | 卒業要件 | 選択 |

<授業の概要>

学んできた教育・保育の理論や技術、教育実習や保育実習で得た学びを個別の「履修カルテ」を通して振り返り、自己課題と学習内容を明確にする。また、幼稚園・保育所・認定こども園・施設の保育者に共通して求められる資質能力及び保育活動における指導力を確かなものにするため、指導計画の作成、保育実践、振り返り等を取り入れる。保育実践と振り返りを組み合わせることでより実践力を高めていく。

<授業の到達目標>

1 保育者として備えるべき姿勢や心構え、役割などの基本的な事項を理解し、説明することができる。2 保育者として持つべき基本的な指導力を知り、実際に指導計画を立て、実践できる。3 保育者としての自分の力量を知り伸ばすための方法を知り使うことができる。

<授業の方法>

・ 講話・指導計画・教材研究・保育実践・振り返り等個人及びグループでの演習・履修カルテ・レポートでの振り返り

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・ 予習：学習予定表に沿って、今回の内容に関する関連資料を探したり、個人またはグループで指導計画作成や保育実践準備をしたりする。(60分程度)・復習：各回の講座の内容について、個人またはグループで振り返りをし学びと課題を明確にする。課題レポートを作成する。(30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

幼稚園教諭及び保育士資格を取得する学生対象の科目である。この科目は、こども発達学科のディプロマポリシー8(広く豊かな社会的常識、人間的に熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付けている)に対応している。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・ 学習態15%、授業課題30%、グループ貢献度 15%、小テスト40%・提出期限厳守のこと

<教科書>

高山静子(2019年6月10日)

保育者の関わり理論と実践 教育と福祉の専門職として
エイデル研究所

<参考書>

文部科学省(2018)

幼稚園教育要領解説

フレーベル館厚生労働省(2018)

保育所保育指針解説

フレーベル館内閣府文部科学省厚生労働省(2018)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説フレーベル館

<授業計画>

| 回 | テーマ | 授業内容 |
|----|--------------------|--|
| 1 | オリエンテーション | 授業の概要、目的、内容、授業の流れ、保育者に求められる保育実践力履修カルテの記入と自己課題の分析 |
| 2 | 専門性に基づく関わりの必要性 | 子どもの「保育」の観点、保護者の「子育て支援」の観点、専門職の観点から専門性に基づく関わりの重要性を考える。 |
| 3 | 関わりの原則について | 人間観、支援の目的と価値、保育者の姿勢と態度、関わりの基本 |
| 4 | 関わりの技術(1) | 演習 肯定的な関わり、自分の強みを生かした関わり |
| 5 | 関わりの技術(2) | 演習 相手を尊重し自己決定を促す関わり |
| 6 | 関わりの技術(3) | 演習 乳幼児とかかわる技術 |
| 7 | 子どもの人権(1) | 子どもの人権を尊重した関わり、子どもの安心と安全を支える関わり、子どもの人権を意識した指導案の作成 |
| 8 | 子どもの人権(2) | 子どもの学びを支える保育者の関わりと言葉、指導案の作成 |
| 9 | 集団を対象とした保育 | 集団を対象に関わる職務と環境づくり |
| 10 | チームの質を高める関わりの技術(1) | 演習 アサーティブな自己表現 |
| 11 | チームの質を高める関わりの技術(2) | 演習 アイメッセージの表現 |
| 12 | チームの質を高める関わりの技術(3) | チームの質を高めるための自身の強みと課題履修カルテのまとめ |
| 13 | 専門職としての自覚(1) | 教育と保育の専門職としてふさわしくない関わり、ふさわしくない関わりをなくす環境づくり |
| 14 | 専門職としての自覚(2) | 関わりの質に影響を与える専門知識、信頼される保育者とは |
| 15 | まとめ | 学びと課題の総まとめ |